



本年も格別のご愛顧を賜い、まことに有難く厚くお礼申し上げます。来年も、より一層のご支援を賜いますよう、JA佐渡役職員一同、心よりお願い申し上げます。



**佐渡再発見パート2**（昨年の第1回に引き続き第2回となる）が、佐渡市小中学校 PTA 連合会教育支援事業として12月6日に開催されました。高齢化社会の中で、次代を担う子供たちに、佐渡には素晴らしい企業と人がいて、ふるさとへの愛と夢をもち職業観をはぐくみ、佐渡で就業いただきたいと企画されました。会場には大勢の親子連れが訪れ、島内の米づくり農家である生産組合や、身近にある携帯やスマホなどのパーツを作る会社、医療と介護関係関連の医療センターなど、真剣に説明に耳を傾けて、時には体験学習をしている姿も見られました。



## ふゆみずたんぼ現地確認

来年28年産の朱鷺と暮らす郷づくり認証制度の取組みに備えて、12月9日から「朱鷺と暮らす郷推進協議会」の一員であるJA等関係機関が「ふゆみずたんぼ」の現



ふゆみずたんぼ

地確認作業を開始しました。水田の湛水期間は、11月から翌年2月末までで、常時湛水又は湿地の状態として保持することが条件であることから、湿地状態や排水口・暗渠などの状態確認を全ほ場で実施しています。ほ場条件や水利権などで湛水が難しい場合は、トラクターなどで溝を付け、雨水が湛まりやすくなるように工夫しています。

この取組みによって、ドジョウや水生生物などの生息環境を整え、冬場でも田んぼが朱鷺やサギなどの鳥類の餌場になるのです。

12月末まで約10日間で島内全域の取り組みほ場を確認します。



ふゆみずたんぼ現地確認

## 須田農園―須田勝洋さん 56歳

須田さんは佐渡出身で、地元の農業高校卒業後、島外で就職しました。29歳の時に佐渡に戻り、10年間の勤めを終えて39歳で就農しました。現在、果樹260a、水田60a(主に地元の生産組合を利用している)に取り組んでいます。この日は、須田さんのりんご畑にお邪魔しました。

作業しながら須田さんは「私は40歳の時に、国の特別対策補助事業を利用して新規就農者としてスタートしました。平成10年に「須田農園」を設立し、今年で18年目になります。農業を始めた頃は、

分からない事が多く、農協の部会や先進地視察などに参加し、先輩からもたくさん教わったりしました。大変なこともたくさんありますが、農業はとても楽しいと感じています。私の農園では、りんごのほか



須田勝洋さん

にさくらんぼ、柿、モモネクタリンなどを作っています。果樹はどうしても天候に左右されるため、リスクを分散のために時期をずらして複数の種類の果物を作っています。りんごも収穫時期が異なる複数の品種を栽培しています。毎年6月にさくらんぼの収穫から始まり、毎月収穫作業があつて忙しいです。出荷が混んで忙しくなると、3〜4名の方に

手伝ってもらっています。

農園を続けていく為には法人化し会社として続けてくれる仲間を作りたいですね。これまで頑張ってきたのは、お客様からの美味しかった一言で、私にとっては一番の励みになります。」と笑顔で話されました。

編集人；佐渡農業協同組合

営農事業部米穀販売課 渡部・買(まい)

[beikokuka.hanbai@ja-sado-niigata.or.jp](mailto:beikokuka.hanbai@ja-sado-niigata.or.jp)

発行日：平成27年12月